らざるを知ると雖も、之を筆に現はすの人尠なし、尤も初學者に向ひかゝる六かしき畫題殊に遠景の陽炎など難問題に着手すべしと云ふには非らず、之れは上達したる後の事として、先づ樹木の影の部分、或は山や道が鼠色の影になれる場合等に就て研究すべし、繪具の色以外に能く遠景の趣を思はしむる好畫を得ば極めて愉快なるべし。

假りに茲に樹木と草とが前景にありて、小徑は其間を廻り〳〵て中景の小高き畠地に至り、此畠地の麓には細流あり、水面は樹木や畠の間より見へ隱れ、遠景には草原や田畝が遙かに延びて天に連なる光景ありとせんか、目前に在る草も遠景の草も同じ草なれば、自然に我が知れる處に據りて色を判定する爲め遠景の草も綠色なるが如く思はるれども、試みに小高き處に到り、目を地に近けて前景の草と遠景の草とを比較するに、遠景の草は少しも綠色には非らず、鼠色を含み且つ近景の草よりも餘程其間に距離を現はせる色なるを認むべし、遠景と前景との間には種々變化せる色現はれ、最近所の草が最綠色を呈すべし、遠景の草にはコバルト、イエローオーカー、ローズマダー少量、ローアンバー少量の類を用ゆべく、又た霧がかゝれる草は極めて六かしきものなるがイエローオーカー、コバルト、ローズマダー少量等を以て畫くなり、要するに永く研究練磨して色の加減を悟るべきなり、空が遠景に接する處は遠景と同時に畫くを可とす。

秋の山と小鳥

秋の鮮美なる山には色鳥なるものが渡來する、色鳥とは、**とがら、やまがら、きくいたゞき、しぢうから、まつがら**。其他の小鳥をいふ、この鳥の羽毛は秋の色に似てゐる、聲は春の百千鳥の優美なる囀と異なり、淡麗なる音を發す。春の小鳥の音は三味線の如く、秋の小鳥の音は横笛の如くである。

〔丸山晩霞氏、女性と趣味〕